

## H25地域協働研究（地域提案型・前期）

### RF-05「岩手県災害派遣福祉チームについて」

課題提案者：岩手県社会福祉協議会、研究代表者：社会福祉学部 准教授 都築光一  
研究メンバー：狩野徹（社会福祉学部）、畠山泰彦（岩手県社会福祉協議会）

#### ＜要　旨＞

本研究では昨年度の研究成果を踏まえ、災害時における社会福祉関係専門職による、災害派遣福祉チームの活動マニュアルに基づいて、人材養成と具体的な研修内容およびプログラムの開発とその検討結果に基づく研修を行うことを目的としている。方法として、岩手県社会福祉協議会内部に、岩手県内の福祉専門職の十団体の代表者と岩手県及び岩手県立大学のメンバーによって構成される検討チームを設置し、昨年度作成した活動マニュアルの内容から具体的な研修内容に関してブレーンストーミングによって進めた。その結果研修は、災害派遣福祉チーム員としての登録のための登録研修、一定の実務能力習得を目指したスキルアップ研修、そしてスキルアップ研修了者に対して定期的に実施する更新研修（仮称）の三段階にて実施することとした。この方針に従い、登録研修を実施した。

#### 1 研究の概要（背景・目的等）

昨年度の研究において、災害派遣福祉チームの活動内容について、具体的な支援事例を検討し、活動マニュアルを作成した。その活動マニュアルにもとづいて、災害発生時における社会福祉専門職がいかなる活動を、いかなる手順で展開すべきなのか、その具体的な内容を明確にし、かつこれに関するシミュレーションにてメンバー一人ひとりが確かめ、支援活動のあり方に関する習得させ、支援チームを構成する必要がある。そのため研修プログラムを作成し、研修を実施することとなった。

#### 2 研究の内容（方法・経過等）

岩手県社会福祉協議会内部に、岩手県内の福祉専門職の10団体の代表者と岩手県及び岩手県立大学のメンバーによって構成される検討チームおよび作業班を設置し、具体的な研修内容等について、実際に展開された支援活動の事例を検討しつつブレーンストーミングによって進めた。進め方として、マニュアルの内容を、実際の避難所の場面で可能であるかどうか、経験者と協議検討の上内容を整理した。またこの結果に基づき、登録研修を実施した。

#### 3 これまで得られた研究の成果

本研究によって、①座学とシミュレーションの内容の区分、②災害派遣福祉チーム派遣の必要性と目的に関する研修内容、③災害派遣福祉チームの活動内容に関する研修内容、④災害時における行政の役割と避難所の運営、⑤災害派遣福祉チームの災害発生後におけるチーム編成の方法、⑥災害派遣福祉チームの活動班の出動方法、⑦登録研修の実施（上記③～⑥の内容に関するシミュレーションによる研修方法）に区分される。

##### 1) 座学とシミュレーションの内容の区分

研修については、一般的に座学が多いものの、今回の研修で期待する社会福祉専門職は、実際の災害が発生した際に、具体的に支援活動を行うことができるスタッフの養成が目的である。そのため、総合的に知識を身につける研

修としての座学も実施するものの、具体的に行動できるようにするためのシミュレーションによる研修を重視することとし、それぞれの研修に要する時間を、50%づつとした。

##### 2) 災害派遣福祉チーム派遣の必要性と目的に関する研修内容

災害派遣福祉チームが必要とされる社会的背景と、今回の東日本大震災における被災者支援の実態から、被災者への福祉支援の必要性に関する研修し、内容を理解する必要があることから、座学で実施することとした。

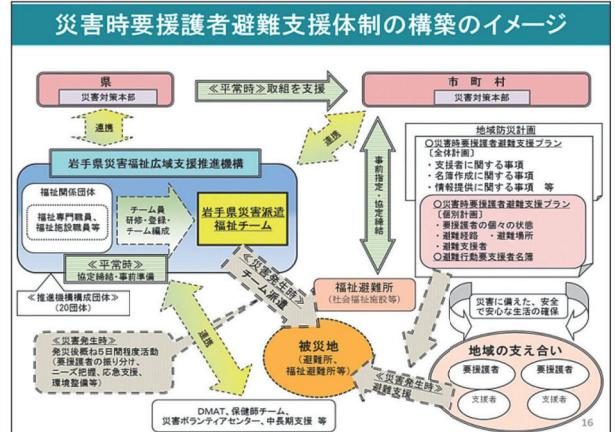


図1 3D復興モデル構築のワークフロー

##### 3) 災害派遣福祉チームの活動内容に関する研修内容

災害派遣福祉チームの活動内容に関し、マニュアルと具体的な活動場面での展開手法について、研修する必要がある。

災害派遣福祉チームは、災害の発災時～一週間程度、発災から一週間～仮設住宅入居時まで、仮設住宅入居時以降の少なくとも三つのステージを考えて対応のあり方を組み立てられる必要があると思われた。このため、総合的な活動内容と、実際の避難所や災害対策本部に対する理解が必要であるところから、座学にて①具体的な活動内容、②マニュアルの伝達、③災害対策本部と避難所に関する基本的知識について実施することとした。一

方シミュレーションでは、マニュアルにしたがって実施することとした。



資料1：岩手県災害派遣福祉チーム活動マニュアル【活動編】表紙フォーマット(平成25年度岩手県災害派遣福祉チーム員登録研修資料より)

#### 4) 災害時における行政の役割と避難所の運営

災害発生時においては、行政の役割と避難所の役割に関し、福祉チームのメンバーは基本的事項に関する理解が必要と考え、研修プログラムに含めることとし、座学にて実施することとした。なお、講師は被災地において実務を経験した人を優先することとした。

#### 5) 災害派遣福祉チームの災害発生後におけるチーム編成の方法

災害が発生したあと、実際に登録している災害派遣福祉チーム員を募集し、チーム編成を行って被災地に支援チームを派遣するまでの手順が、発災時において速やかにかつ確実に行われる必要があるため、慎重な検討を重ねた。その結果、少なくとも携帯メールを使用することとした。メールの届かない地点は被災地であることが想定されるため、チーム員として募集すること自体困難と思われるところから、メールの送受信できる範囲内でチーム編成することを基本とした。この一連の流れと具体的なチーム員の対応のあり方について、座学とシミュレーションで実施することとした。とりわけシミュレーションでは、相当程度の時間をかけてトレーニングすることとした。

#### 6) 災害派遣福祉チームの活動班の出動方法

災害派遣福祉チームのチーム員の召集ができた際、事務局においてメンバー編成を行い、併せて派遣すべき避難所を特定して派遣することができるようとする必要がある。そのため、被災地までの一連の対応のあり方、災害対策本部での具体的な対応のあり方および避難所到着時の基本的な対応のあり方等について、トレーニングする必要があると思われた。そのため、座学とシミュレーションにおいて実際に研修する必要があると思われた。

#### 7) 登録研修の実施

これまでの検討結果を踏まえ、岩手県災害派遣福祉チームのチーム員登録研修を行った。岩手県社会福祉協議会が研修の実施機関となり、岩手県内に受講者を公募したところ、200名を超える応募者数となったため、200名で打ち止めとした。座学は2014年2月12日(木)に実施し、シミュレーション訓練（「図上訓練」という。）を、

受講者を3班に分け、2月13日(木)、3月8日(土)、3月9日(日)の三日間にわたり実施することとした。



写真1-2：岩手県災害派遣福祉チーム登録研修資料および図上訓練風景

#### 状況4(災害対策本部での言動のあり方)

- ・9時30分になって派遣チームは、釜石市災害対策本部に到着した。
- ・課題4  
・「ここであなたは、どうしますか？」

資料2：災害派遣福祉チーム図上訓練の課題の例（災害対策本部での対応例）

#### 4 今後の具体的な展開

今回の研究・研修の成果にもとづき、課題を整理すると以下のようになる。第一に今回の研究及び研修は、あくまで発災から一週間までの期間における対応が中心であり、その後の具体的な支援活動のあり方について、さらに研究検討を必要とする点である。第二に登録研修終了者の中から、スキルアップ研修を実施する必要があり、これのプログラムの作成のための研究が必要となる。第三に、災害派遣福祉チームに関して、未だ県民や地方公共団体に存在が普及していないため、広報活動が必要であることなどがあげられる。

#### 5 その他（参考文献・謝辞等）

- ・日本社会福祉系学会連合「研究活動報告書」平成23年度版・24年度版
- ・平成25年度岩手県災害派遣福祉チーム員登録研修資料